

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570101943		
法人名	社会福祉法人 下関市社会福祉協議会		
事業所名	下関市社協 グループホームしまど		
所在地	下関市豊北町神田4611-2		
自己評価作成日	平成22年8月30日	評価結果市町受理日	平成22年11月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成22年9月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山があり海があり大自然にかこまれ、のんびりとした環境の中で生活しています。地域の方々に支えられてホームが成り立っています。ボランティア活動も盛んで夜間時地域の方がお泊りをされたりホームの畑の手伝いなど協力を頂いている。月1回のタマちゃん喫茶には地域の方々と入居者の方々との交流があります。
--

2ヶ月に1回開催されている運営推進会議の参加者が、毎回20数名あり、1～2時間かけて、テーマを決めて熱心に意見交換されています。事業所で行われる夏まつりや、災害時の合同避難訓練についてなど、地域の人々との協力体制をどうするかを話し合わせ、子どもから大人まで地域の人がたくさん参加された夏まつりの開催や、年2回の合同避難訓練を実施されるなど、運営推進会議を活かした取り組みがされています。1度休止になっていた「タマちゃん喫茶」を運営推進会議で検討され、4月より(月1回)再開しておられます。お泊りボランティアによる「ねたろう会」も月2回実施されており、地域の人と利用者の交流が図れるよう支援しておられます。地域向け事業所だよりを発行され、地域(約70)に配布しておられ、また、家族会を開催され、楽しいひとときが過ごせるようにと昼食を用意して利用者と家族と一緒に食事できるようにされるなど、理念(ゆったりと、のんびりと、その人らしく笑顔をもって家族や地域の方との縁を大切に)に沿った取り組みをされています。訪問調査当日、ゆったりと穏やかに安心して暮らしておられる利用者の様子が伺えました。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中でその人らしく暮らし続ける事を支えていくサービスを目指し朝のミーティング時に理念を職員で唱和し、日々取り組んでいる。	「ゆったりと、のんびりと、その人らしく笑顔をもって、家族や地域の方との縁を大切にする」という事業所独自の理念をつくり、玄関ホールに掲示し、朝のミーティングで唱和して共有している。日常的に地域との関わりを大切にし、理念に沿ったケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域自治会の一員として自治会費を納め自治会の行事にも参加している。ホーム便りを発行し地域に回覧している。	地域の祭や餅まきなどに参加したり、事業所主催の夏祭りに、地域の方の参加があり交流している。小・中学生によるトランポリンや銭太鼓の演技を楽しんでいる。保育園の園児達との七夕会、月1回の(タマちゃん喫茶)、お泊りボランティアによる(ねたろう会)、自治会の清掃作業の参加(職員)、地域向け事業所だよりの配布など、地域との関わりが深まるように取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症を支える家族の会への参加をし認知症の方の対応など話し共に学んでいる。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	前年度の外部評価を回覧し職員間で話し合い評価を活かした改善に取り組んでいる。	評価の意義を理解し、全職員で自己評価に取り組んでいる。項目の捉え方の違いがわかったことで話し合い共有している。外部評価結果についても話し合い、改善に向けて取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回運営推進会議を開催し28名と多く外部評価の結果、現状報告等をし意見を聞きサービスの向上に活かしている。	2ヶ月に1回、20数名の委員の参加で、1～2時間熱心に意見交換し、出された意見を運営に活かしている。毎回テーマを決めて課題を話し合う他、現状報告、行事(夏祭りの開催準備等)、地域との合同避難訓練についても話し合い取り組んでいる。法人グループホーム(3ヶ所)での合同運営推進会議を開催して、課題を話し合っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町担当者も運営推進会議にも参加され事業所の取り組みについて伝え協力関係をもっている。	市担当者と電話で連絡をとったり、支所に出向き、市の保健師に相談するなどしている。地域向け事業所だよりを提供し、事業所の取り組みを伝えている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等排除の為の取り組みについて日々職員間で話し合いホームに宣言を掲げケアに取り組んでいる。	マニュアルがあり、ミーティングで常に話し合い、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。玄関等に鍵をかけていない。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	以前地域包括支援センターから講師を招いて研修し日々のケアの中で職員間で注意し防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度について管理者が以前研修に行き職員間に復命の機会を設け個々の必要性、関係者につなげられるよう支援している。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には家族に契約書、重要事項説明書を説明し理解、納得を図り改定の際には家族会を開催時説明をし理解を求めている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付については体制を儲け速やかに職員ならびに外部者への表せる機会を設け意見要望についてホームに気づき箱を設置し意見等を聞ける体制をとっている。	面会時や家族会での個人面談時、運営推進会議などで家族からの意見や要望を聞いている。相談や苦情の受付体制や処理手続きを定め周知している。気づき箱の設置をしている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議に職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	朝のミーティングやケア会議などで職員の意見や提案を聞いたり、年に1度法人全体で職場アンケートをとり、職員の意見を聞き運営に反映させている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員個々の努力、労働時間等について代表者には伝わっていないようだ。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は勤務の一環として出席し、他の職員に復命の機会を儲け共有している。	外部研修の情報を把握し、段階に応じた参加の機会を勤務の一環として提供している。受講後復命をし、全職員で共有している。内部研修は月1回テーマを決めて1時間程度行い、日々の体験を学びにつなげていけるよう職員を育てる取り組みをしている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口県宅老所・グループホーム連絡会の研修や交流会への参加をし積極的にサービスの質を向上させる取り組みをしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で家族や本人に施設を見学してもらい、雰囲気を感じていただきお茶を飲む等の時間を職員や利用者と共に過ごしている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームに見学に来られたとき不安なこと要望などを聞くようにしている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で家族や本人の思いに耳を傾けその方、家族が困っていることについて他のサービスの紹介もしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームの中庭にある畑にて利用者の方が野菜の植え付けの仕方を若い職員に教えたり屏風作りを一緒にし出来上がりを共に喜び感謝の言葉かけを大切に支えあう関係を作っている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院など家族ができない時ホームでの対応をし結果については電話での連絡共に本人を支えていく関係を築いている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の行き着けの美容院への送迎付き添い、故郷訪問等柔軟な支援をしている。	現在は誰も住んでいない自宅を訪問し、庭の花を摘んで事業所に持ち帰ったり、馴染みの美容院に出かけたり、同級生の家を訪問したりと馴染みの人や場との関係継続の支援をしている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりができることを職員が把握し関わり合い一人ひとりの役割が出来るよう支援している。(洗濯物干し・洗濯物たたみ・お盆拭き等)		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームを退所された利用者、家族の支援はこれまでの関係性を大切に相談が入るときには支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの暮らし方の希望については日々の生活の中で、洗濯物の整理を積極的になされている。	入居時のフェイスシートや、利用者との日常の会話、日々の暮らしぶりを通して思いや意向の把握に努めている。把握が困難な場合は、利用者の表情や動作から読み取ったり、家族からも聞きとり本人の立場に立って検討している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族から生活歴を聞きその方の暮らしが現れるよう介護計画書に掲げ支援している。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の起床時顔色を観て一人ひとりの心身状態をみる。一日の過ごし方は読書をお部屋で楽しまれたり仲の良い利用者同士でお話、洗濯物の整理を積極的にされている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その方の介護計画の見直し時本人の思いを反映した介護計画書を作成している。	ケア会議を月1回開催し、面会時等で聴きとった家族の意向や医師の意見を参考にして意見を出し合い、介護計画を作成している。モニタリングを3ヶ月ごとに行い、6ヶ月ごとや、利用者の状況に合わせて見直しをしている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録に記入し職員間で情報を共有している。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入院等で状況が変わり退院後の計画の見直しをする際家族に状況を伝え柔軟な支援ができるようしている。(家族ができない時の入退院時の送迎)		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一年を通して季節毎の花見、買い物、散歩、角島へのドライブなど豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時からのかかりつけ医との関係を築き適切な医療を受けられるように支援している。	協力医療機関をかかりつけ医としている他、これまでのかかりつけ医での医療が受けられるように支援している。協力医の往診は定期的にある。緊急時や必要に応じて受診のつきそいや家族と同行している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣にデイサービスの看護師が常駐しており気軽に相談できる体制ができている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の主治医とは少しの変化でも連絡し支持を聞いている。病院関係者との情報交換、相談に努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の重度化した場合や終末期のあり方については家族会で話し合いホームの方針を理解していただいている。	入居時に説明するとともに、家族会で話し合い、事業所の方針を理解している。重度化した場合(要介護度3)は、本人、家族、医師、関係者などで話し合い、他施設への移設を支援している。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	転倒、誤薬、行方不明等を防ぐ為にケア、関わりの中で職員がヒヤッとしたことなど報告書を書き職員間で事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリはっと報告書に記録し、対応策を検討しているが、一人ひとりの事故防止への取り組みまでには至っていない。消防署の協力で救命講習を受講している。今年度も9月に予定し全ての職員が対応できるよう取り組んでいる。	・ヒヤリはっと報告書を活かした一人ひとりの事故防止の取り組み
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	一年に2回(避難訓練)を地域の方と協力体制を築き実施している。(地域と考えた防災マップ)	年2回(1回夜間想定)避難訓練を地域と合同で実施している。地域との協力体制を築いている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重しプライバシーを損ねないような言葉かけ対応をしている。 (トイレの誘導等) (間違って他の利用者の洋服を着られた時等)	マニュアルがあり、研修を実施して、利用者一人ひとりの尊厳を守り、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしないことを徹底している。日常のケアで気づいたときは、管理者が職員の指導をしている。個人記録等は保管、取り扱いに注意している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が決めるのではなくその日に着る洋服も利用者が選択できるような声かけ働きかけをしている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お10時のお茶の時間、利用者同士で話す内容を聞き職員も会話に入り希望に添うように支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	来訪時家族から季節ごとに合わせて洋服が届く。美容院など利用者の行きつけのところに家族又は職員が送迎付き添うこともある。ホームに訪問美容室2～3ヶ月に1回美容師さんが来る。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が利用者との会話の中で好みのものを聞きおやつなど一緒に作って食べたりする。食べたお膳は自分でカウンターに届ける利用者もいる。	月・水・金・土の昼食は配食サービスを利用しているが、その他は事業所で食事づくりをしている。利用者の好みのものを聞いて献立を立てることもあり、一緒に買い物をしたり、テーブル拭きやお茶入れ、下膳などし、同じ物を食べて会話し、食事が楽しめるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量は個別に(1日の摂取量)チェック表がある。栄養摂取について年1～2回カロリー計算し老人食の目安を考え個別のケース記録に主・副菜(○:○)でチェックしている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後できる利用者1～2名、夕食後は必ず全員口腔ケアをし義歯を預かり消毒をする。義歯の調整、虫歯があり痛みがある場合は家族に繋げて家族か職員での通院対応、佐々木歯科の訪問診療もある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表にて一人ひとりのパターンを職員が把握し自立に向けた支援をしている。	排泄のチェック表を活用して、一人ひとりのパターンを把握し、トイレでの排泄ができるように支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の生活の中で散歩や軽運動をしたり食事の内容も繊維質の食材を取り入れ提供している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	午後の入浴を通常行っているが個々状況に応じて午前や夕食後など柔軟に対応している。	入浴は隔日の午後に行っているが、利用者の希望や状態に合わせて、毎日や午前中、夕食後にも入浴ができるようにし、ゆっくり入浴が楽しめるように支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状況に応じて休息したり気持ちよく眠れるように布団干し、シーツ交換等こまめに支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の服薬表を作成し職員、全員理解している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとの楽しみごと地域の保育園、小学生との交流、月1回(第4日曜日)ホームでタマちゃん喫茶を開催し地域住民の来訪がある。	紙をちぎることを仕事にしている人、ウェスづくり、縫い物、ぬり絵、歌、俳句、習字、洗濯物干し、洗濯物たたみ、草取り、散歩、保育園児との交流等、楽しみごとや活躍できる場面を一人ひとりに合わせてつくり、利用者が張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に添って買い物にでかけたり家族と一緒に外出などしている。季節行事で、なし狩り等家族や地域ボランティアの協力で支援している。	散歩、買い物、ドライブ、季節の花見、自宅訪問など、一人ひとりのその日の希望や、家族同伴での外出など、利用者の状態に合わせて外出できるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームに個人の小口現金を預かり管理しておりその中から使えるようにしている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由にしたい時に利用者ができる体制をとっている。利用者が手紙を書かれたら一緒にポストに出しに行くこともある。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感、季節感を採り入れるような飾りつけをして居心地よく過ごせるように工夫をしている。	自然の光をとり入れて、あたたかみのある明かりになるよう季節や時間に合わせて工夫している。玄関や洗面所、リビングに季節の花を活けてあり、廊下には作り付けの腰掛けや小さなテーブルと椅子が置かれ、窓から花(あさがお)が見えるなど、季節感が採り入れられるように工夫し、台所からの調理の音や匂いで生活感も感じる事が出来るように、利用者がそれぞれの居場所で居心地良く過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の仲間づくり、ひとりでの空間づくり、個人に合わせて工夫している。(〇〇さんのサロン・青のソファ)		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家にあったものを持参してその人の居室が心地よく過ごせるようにしている。	テレビ、机、椅子、小ダンス、蒲団、写真等使い慣れた物や好みの物を持ち込み、花や作品を飾って自分の部屋づくりをし、穏やかに過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内の柱や戸に場所の名前を書いて目印としひとりでできる事安全で自立した生活が送れるように支援している。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム しまど

作成日： 平成 22年 11月 25日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	ヒヤリはっと報告書に記録し、対応策を検討しているが、一人ひとりの事故防止への取り組みまでには至っていない。	利用者一人ひとりが薬を絶対に間違わずに服用することができる。	・厚狭、いる、悠の薬袋wの色分けをする。 ・薬袋に書いてある名前を声に出して確認する。	6ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。